



| 令和 2年 3月 5日 |              |
|-------------|--------------|
| 資 料 提 供     |              |
| 担当課(室)      | 県立博物館        |
| 担当班・係       | 学芸課          |
| 担 当 者       | 主任学芸員 大河内    |
| 電 話         | 073-436-8670 |

## 企画展「きのくにの物語絵 ―絵解きの聖地・和歌山―」 開催のお知らせ

県立博物館では、令和3年3月13日(土)～4月18日(日)の会期で、企画展「きのくにの物語絵 ―絵解きの聖地・和歌山―」を開催します。

さまざまな物語を絵巻物や冊子にしたり、その一場面を掛軸や屏風などに描いた物語絵は、平安時代以降、連綿と作られ続け、人々の目を楽しませてきました。そのうち寺社の縁起を題材とするものは縁起絵ともよばれ、神仏の靈験をきらびやかに伝える信仰の所産として、多くの資料が伝わってきています。

また高野山や熊野三山を始めとする宗教的聖地が各地に分布し、多数の参詣者や観光客を迎え入れてきたきのくに―和歌山県では、そうした物語絵・縁起絵を絵解きする文化が発達し、今日まで継承されています。

この企画展では、信仰に関わる資料を中心として魅力あふれる物語絵をご覧くださいとともに、現代に生きる和歌山県の絵解き文化をご紹介します。



熊野権現縁起絵巻(部分) 和歌山県立博物館蔵

出陳点数24点(ほか写真パネル30枚)、うち重要文化財1点、和歌山県指定文化財2点、市町指定文化財1点を含みます。出陳資料一覧は別添のチラシをご覧ください。

|       |                                                                                                                 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 企画展   | きのくにの物語絵 ―絵解きの聖地・和歌山―                                                                                           |
| 会 期   | 令和3年(2021) 3月13日(土)～4月18日(日)                                                                                    |
| 会 場   | 和歌山県立博物館 (和歌山市吹上1-4-14) 企画展示室                                                                                   |
| 開館時間  | 午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)                                                                                     |
| 休 館 日 | 毎週月曜日                                                                                                           |
| 入 館 料 | 一般280円(230円)・大学生170円(140円) ※( )内は20名以上の団体料金<br>※高校生以下、高齢者(65歳以上)、障害者手帳をお持ちの方、県内に在学中の外国人留学生は無料<br>※4月4日(日)は無料入館日 |

## 企画展「きのくにの物語絵」の見どころ



てんじんえん ぎ え まき

天神縁起絵巻 3巻

天満神社蔵 貞享2年(1685)

和歌浦の天満宮に伝わった3巻からなる縁起絵巻です。太宰府に左遷された菅原道真が怨霊となり、鎮めるために神として崇められ、北野天満宮が建てられたことなどを描いています。

奥書から貞享2年(1685)に紀伊藩付家老の子であった水野重孟が書写させ奉納したものとわかります。荏柄天神縁起(重要文化財・前田育徳会蔵)と基本的な内容は一致しますが、相違点もあって、この系統の写本研究の上で重要な情報を提供しています。



ご そ さいしやう ず

せき

五祖栽松図 1隻

草堂寺蔵 天明6~7年(1786~87) 重要文化財

中国禅宗の第五祖、弘忍(602~675)の前世の姿を描いた絵です。伝承によれば弘忍は父を知らずに生まれ、子どもの時にすでに仏性を得て、老いるまでひたすら松を栽えた道者でしたが、第四祖の道信に出会い、教えを受けるために生まれ変わり、童子となって再び道信のもとに参禅した、といわれます。そうした高僧の物語を象徴的に示した禅画の一つです。指や手で描く指頭画の技法で、栽松道者の「骨相奇秀」の風貌と、重量感ある立ち姿を高い精神性を伴って描いたもので、長沢蘆雪(1754~99)の傑作です。



な ち さんけい まん だ ら

那智参詣曼荼羅 1舗

熊野速玉大社蔵 室町~江戸時代

熊野三山のうち那智山を描いた参詣曼荼羅は、全国に30点以上確認されます。熊野の勸進聖が携え、諸国に定住する中で残されたもので、本宮・新宮の勸進聖もこれを用いました。本図は、新宮・神倉山麓の妙心寺にかつて伝来した資料で、同寺は絵解き勸進の主力であった熊野比丘尼を統轄する拠点寺院。普段は折り畳み、使用時に広げて絵解きを行った本来の使用形態を伝えています。

広報用画像をデジタルデータでご提供します。次のメールアドレスに必要な画像をお知らせ下さい。

[admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp](mailto:admin@hakubutu.wakayama-c.ed.jp)